

Raiders Report for Futures & FX

2012年1月22日号

推奨銘柄 :

1. ゴム買い (トレンドフォロー&中期売買法、新規準備)

注目銘柄 :

2. 原油買い (中期売買法、新規準備)

今週の一言 :

「バンコク」

今週からバンコクにきています。バンコクは1週間滞在して、次はリゾート地のプーケット(カタビーチ)に1週間滞在する予定です。

バンコクは、10月~11月にチャオプラヤー河が氾濫して、一時は大変な状況になっていたようですが、今はすでに水も引いて元の状態に戻っています。タイのベストシーズンは11月~2月と言われています。11月に入ると、バケツをひっくり返したように雨が降ると言われる雨季が終わり、乾季が始まります。乾季の始まりはまだ暑過ぎず、非常に快適な日が続きます。2月半ばくらいから、徐々に気温が上がり始め、耐え切れないくらいの暑さになっていきます。ですから今はまだ日中でも外を歩ける程度の暑さです。

バンコクにきたことの無い人は、汚い、臭い、貧しいというイメージを持っている人が多いようですが、バンコクはすでに東京と似たようなものになってきています。おしゃれで近代的なデパートが沢山あり、ガラス張りの高層ビルもどんどん経ってきています。当然ながら家賃水準も上がってきており、東京の港区に相当する中心部では、家族が住めるサービスアパートメントやコンドミニアムを借りると、20~40万円はします。ただし、部屋の広さは日本に比べるとかなり広いので、満足感は高いと思います。

もちろん少し場所を外して、BTSと呼ばれる高架電車の駅から離れれば家賃はぐっと安くなりますが、その場合は車移動となりますので、バンコク名物の大渋滞に巻き込まれることは必須です。また雨季ともなると、たとえBTSから徒歩10分圏内であっても、傘をさして歩ける状態にはありません(雨がすご過ぎて傘が機能しない)ので、大変な苦勞をするそうです。

それでも住めば都だそうで、私の友人2人がバンコクとパタヤに移住しています。タイの緩~い空気が良いのだそうです。パタヤはリゾート地としては物価も比較的安いですし、歌舞伎町のようなピンク色の雰囲気さえ気にならなければ住みやすいそうです。将来の日本を見据えたとき、海外移住という選択肢も十分ありえますね。

ゴム買い (トレンドフォロー&中期売買法、新規準備)

弟子 前回レポートで「今後の注意点としては、エントリーが発生する前に、12月1日の高値282.0円 (BA後) を終値が上回ってしまった場合、再びアップトレンド転換する可能性が出てくるという点です。(中略) 今は保合いの中で徐々に取組高が増加してきており、エネルギーを溜め込んでいる最中です。ブレイクアウトが発生しやすい状況ですので、12月1日の高値を抜いてきたら、短期ブレイクアウトを狙っても面白いかもしれません」とアドバイスされましたが、このシナリオどおりの値動きとなりましたね。

師匠 1月17日の始値は282.7円だったので、この段階で12月1日の高値282.0円を上抜いてブレイクアウトが発生している。理想的には、始値が282.0円よりも下で始まり、そこから上に抜けていく方がエントリーしやすいのだが、今回程度のギャップであれば、それほど気にする必要はなかっただろう。

弟子 ところでブレイクアウトを狙った売買での手仕舞いはどのように考えれば良いのですか？

師匠 基本的にエントリーした日の大引け、または利益となった日の大引け、あるいは翌日寄り付き手仕舞いが原則だ。どんなに引き伸ばしても、エントリーした日の翌々日の寄り付きでは手仕舞いした方が良い。短期ブレイクアウト戦略なのだから、これまで狭いレンジに集まっていたエネルギーが解き放たれた値動きのみを狙っていく。トレンドフォローのエントリーでトリガーとして用いるブレイクアウトとは根本的に考え方違う点に注意して欲しい。

弟子 今回の値動きではどのルールで手仕舞いしたとしても、ブレイクアウトは確実に利食いとなったと思いますね。今後の売買はトレンドフォローと中期売買法の両方を指示しておられますが、これはどういうことなのでしょうか？

師匠 日足だけでなく週足もアップトレンド転換したので、トレンドフォロー戦略を採用するはわかってもらえると思うが、SMA オシレータはすでに買われ過ぎ領域に入ってきているので、ここで買うとリスクが高い。だから押し目を待って、中期売買法のエントリーシグナルの発生で、エントリーを行う。ただし、高値更新で半分利食いした後は、残り半分はトレンドフォロー戦略としてダウントrend転換までは保持する。その際、スイングLだと距離が遠すぎて枚数が持てないので、20日指数平滑移動平均をトレンド転換の認識に用いる。SMA オシレータが5%を下回っていない限りエントリーしないように。

原油買い（中期売買法、新規準備）：

前回のレポートで「週足のトレンド転換は終値ベースではまだ発生しておらず、週足高値が直近スイングHを超えたのみとなりました。この状態では日足のアップトレンド継続には若干不安が残ります。またNY原油の値動きも、1月10日に発生した中期売買法の買いシグナルは損切りとなっていますので、この2点から考えると、今回のエントリーは見送るか、あるいはリスクを半減してのエントリーとなります」と解説しましたが、結局週末には週足もアップトレンド転換してきました。

ただ中期売買法のエントリー発生は1月17日だったので、この段階ではまだ週足アップトレンドとはなっておらず、リスクを押さえてのエントリーになったと思います。エントリーした人は、週末の値動きで直近の高値を上抜いているので、これで半分利食いとなっています。

今後の売買ですが、結構悩みます。NY原油の値動きと、東京原油の値動きに、相当な違いが発生しています。東京原油は、これから買って行っても問題なさそうな値動きを示しているのに対し、NY原油はかなり頭が重たい値動きとなっています。このように本来の相場をリードする市場の値動きが思わしくないと、なかなか強気で攻めることはできなくなります。

週末のNY原油は反落していますので、月曜の東京原油も売られるはずですが、そうなりますとそこで残り半分の手仕舞いが発生しますので、今後どうするかを考えておく必要があります。

一応、東京の値動きを尊重するなら中期売買法の買いエントリーを狙っても良いと思いますが、その場合でも、直近の高値更新で全玉手仕舞いした方が安全かもしれません。また不確定要素があるわけですから、リスクは半分にするというのも考えておく必要があるでしょう。

その他：

金と白金は週足ダウントレンドで日足アップトレンドですので、狙うとしても中期売買法の買いになります。もし狙うなら株の値動きが良くなってきていることから、工業品であるプラチナの方が良いと思います。

穀物も同様に週足ダウントレンドで日足アップトレンドなのですが、こちらはすでにかなり深い押しが発生していますので、ひょっとするとこのままダウントレンド転換していく可能性が見えてきています。

こちらは値動きが比較的はっきりしているコーンの中期売買法売りを狙ってみても良いと思います。日足アップトレンドの中で売りを狙っていくわけですから、当然ながらリスクは半分以下に軽減してエントリーを行う必要があります。無理に売買する必要もありませんので、あれこれとシナリオを考えて、値動きを追って行って下さい。

為替と株

FX (ユーロ/ドル) :

前回レポートで「1月12日に再び中期売買法売りのセットアップが完成し、翌日には売りエントリーシグナルが発生しているものの、同時に新安値を更新していますので、仮にここでエントリーしたとしても、半分のリスクでのエントリーとなります。予想している以上にユーロが弱い状態が続いていますが、どこかで反転してきますので、あまり深追いは禁物でしょう。今後はSMAオシレータの水準を注目し、これが-2%を下回っている状況で売りを仕掛けないように注意して下さい」とアドバイスしました。今回のユーロの戻りは、これまでとは異なり力強い値動きとなっています。

現段階では20日指数平滑移動平均繊維対し、中期売買法の売りセットアップが完成している状態ですが、あまり迂闊に仕掛けない方が良くとおもいます。仮にエントリーが発生しても、見送るか半分のリスクでエントリーする方が安全です。

日経225先物 :

前回「NYダウがアップトレンドであるのに対し、日本の株式市場の値動きだけを見ますと、ダウトレンドの中における保合いという判断になりますので、手出しができません。日本市場がアップトレンド転換するまで (TOPIX終値が1月4日の高値を上抜くまで) はしばらく見送りでしょう」と書きましたが、ついに1月4日の高値を上抜いて日足がアップトレンド転換してきました。また12月7日の高値も抜いたことで、週足もアップトレンド転換しました。これでいよいよ日本の株式市場にも明るい兆しが見えてきました。まだもう少しはギクシャクした値動きになるかもしれませんが、上場企業の好業績を見る限りでは、意外に良好なアップトレンドになっていくのではないかと期待しています。

お知らせ

レポートはリアルタイムで進行していきます。従いまして、途中から購読を始められた方は、最初の内は理解するのが大変だと思います。

レポートを理解して頂くには、基本となる売買理論を事前に学習して頂く必要があります。それにはセミナーDVDをご覧になって頂くのが一番です。基本となる、「**RMG 長期売買法、RMG 中期売買法、RMG 鞘取り戦略**」は事前にマスターしておかれることをお勧めします。DVDの購入は下記のHPになります。

http://www.investechno.com/html/sp_c/menu_video.htm

レポートの解説をお読み頂くことも重要です。

http://www.investechno.com/html/sp_c/menu_marketreport.php